

都立高校事務員の異動 決定支援モデルの提案

根本研究室10期生
山本 怜史

目次

1. 研究動機

2. 異動先候補の選別

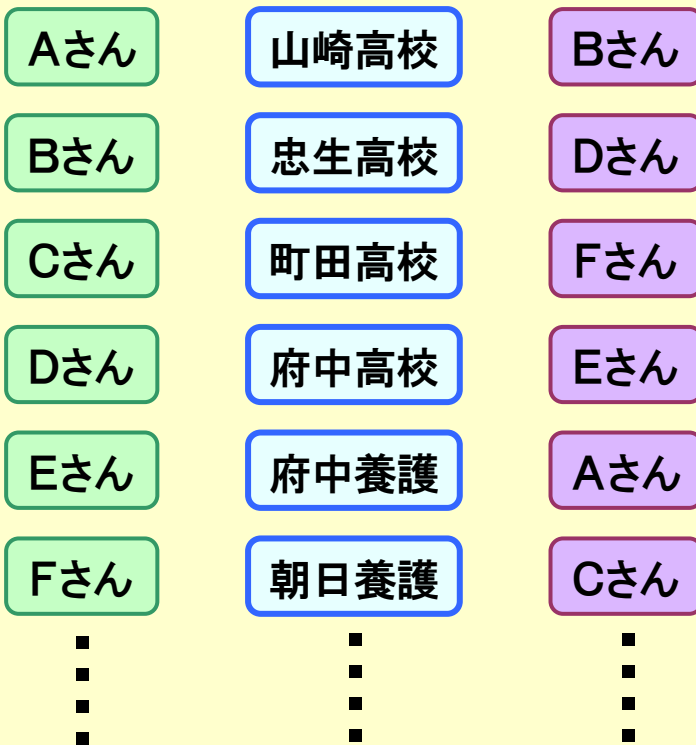
- i. 前提条件
- ii. 通勤時間について
- iii. 通勤可能な高校の決定

3. 配属問題

4. 今後の研究課題

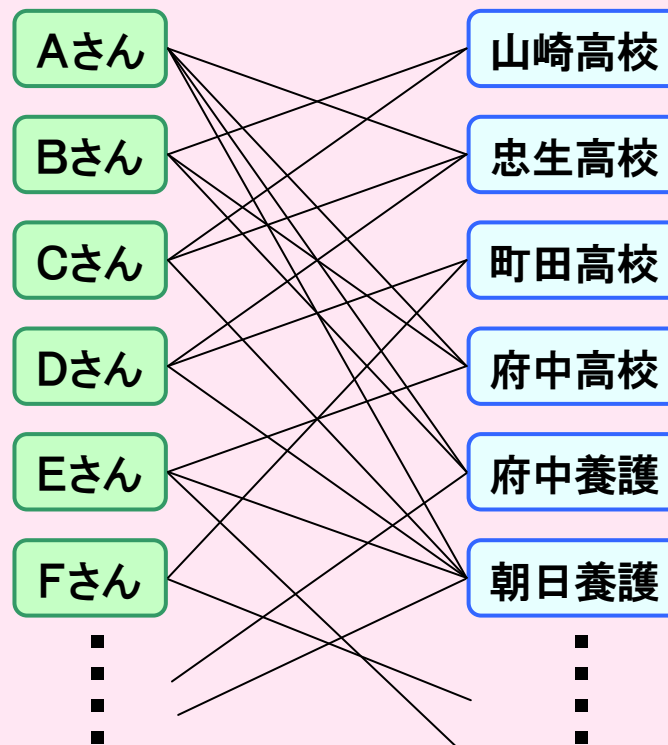
研究動機

現状



決めやすいところから決定

提案

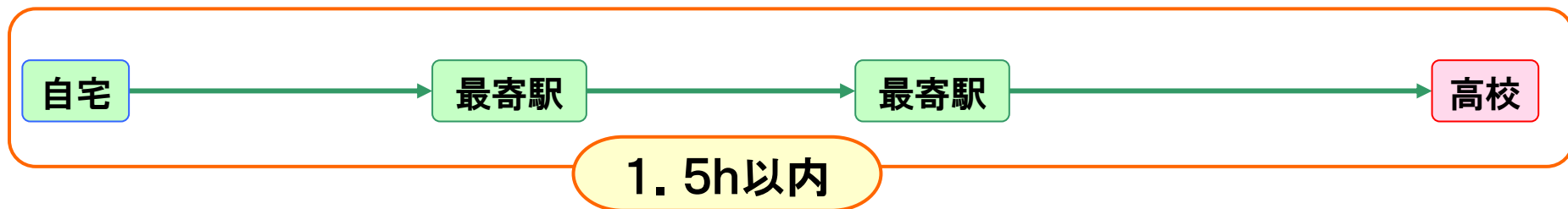


配属問題として解く

異動先候補の選別

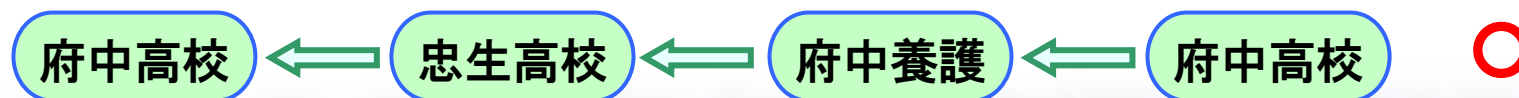
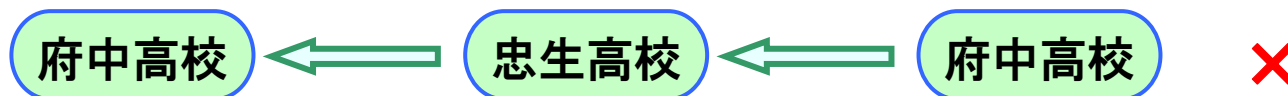
i. 前提条件

■ 通勤時間1.5h以内



■ 親族のいる高校には異動できない

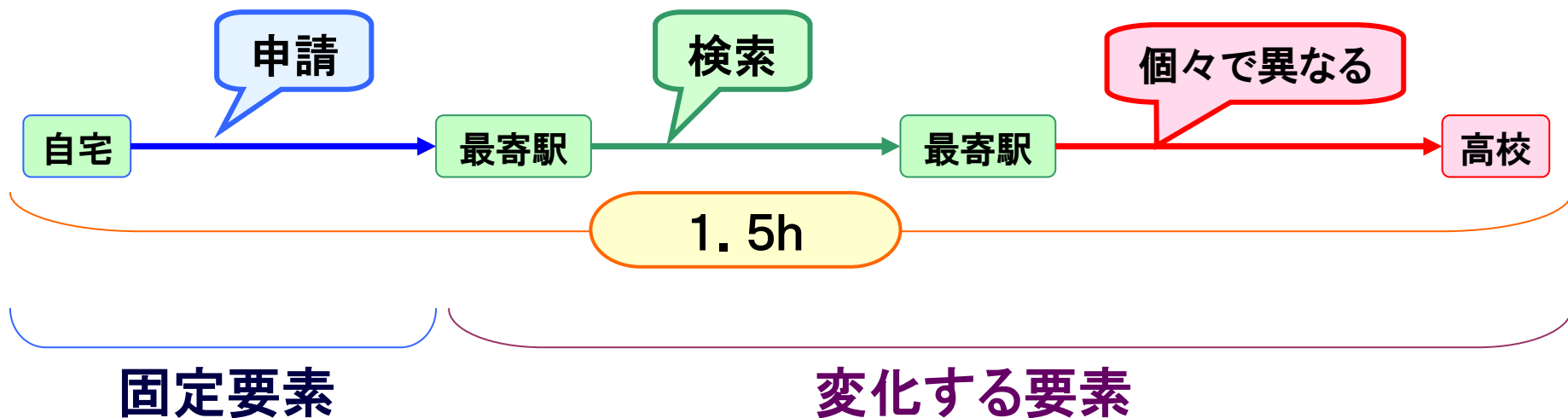
■ 現任・前任の高校には異動できない



異動先候補の選別

ii. 通勤時間について

公務員の通勤手段 \longrightarrow バス、電車(例外あり)



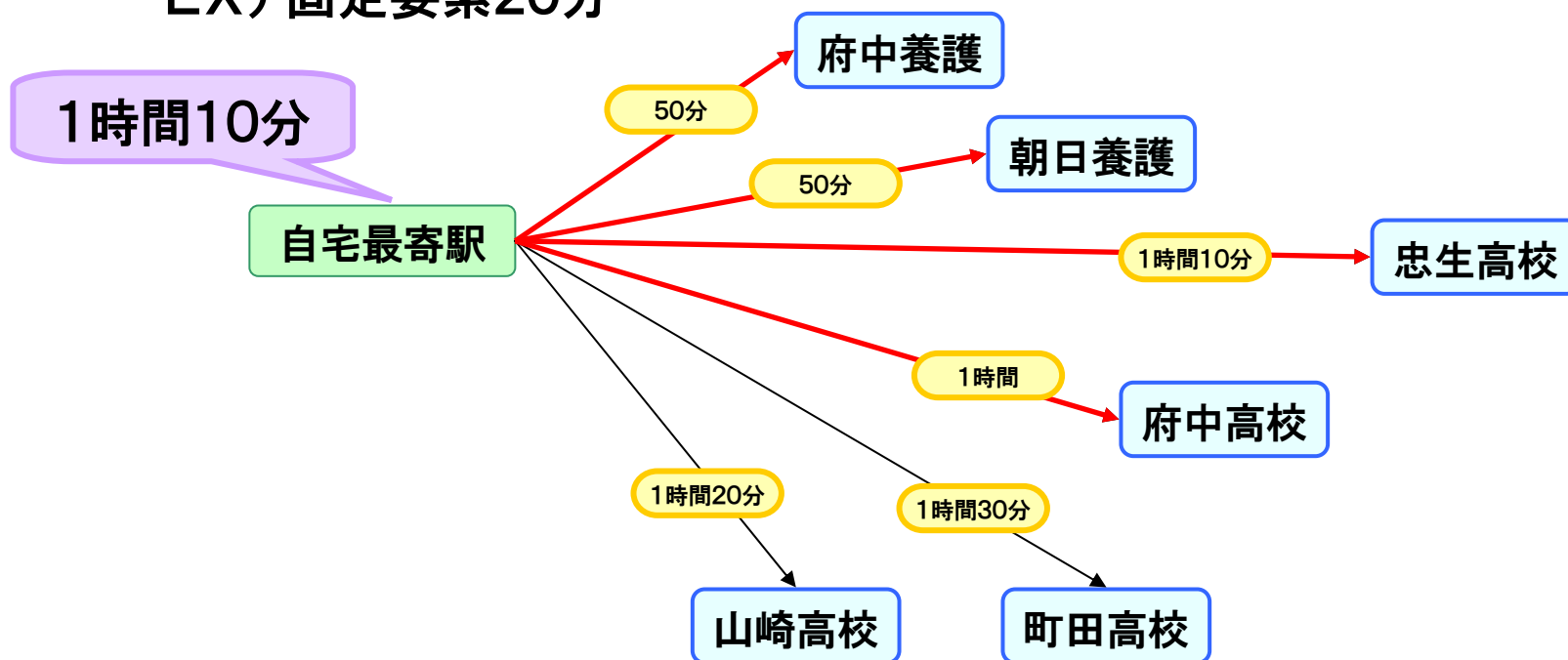
1.5h - 固定要素 = 自宅最寄駅から高校までの移動時間

異動先候補の選別

iii. 通勤可能な高校を決定

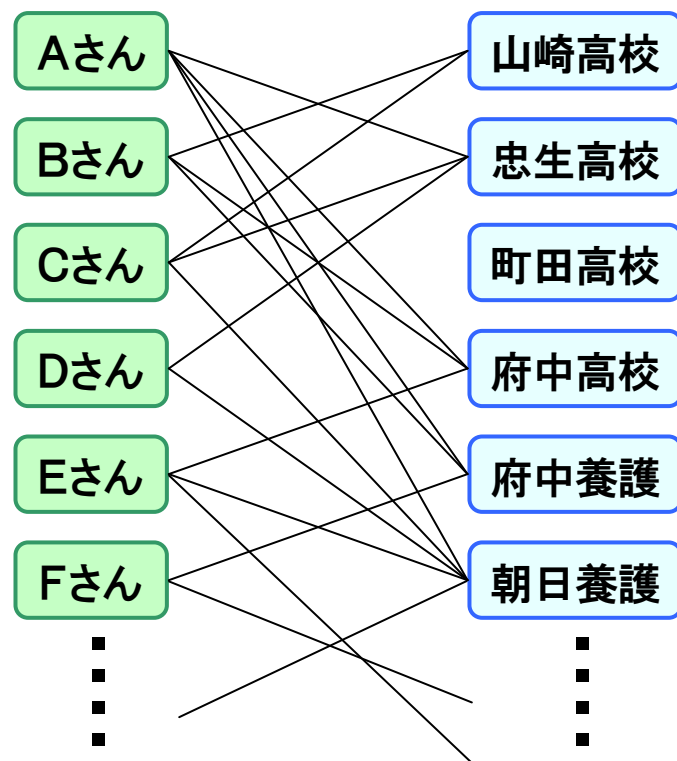
1. 5h-固定要素 = 自宅最寄駅から高校までの移動時間

EX) 固定要素20分



これを基に配属問題を作成

配属問題



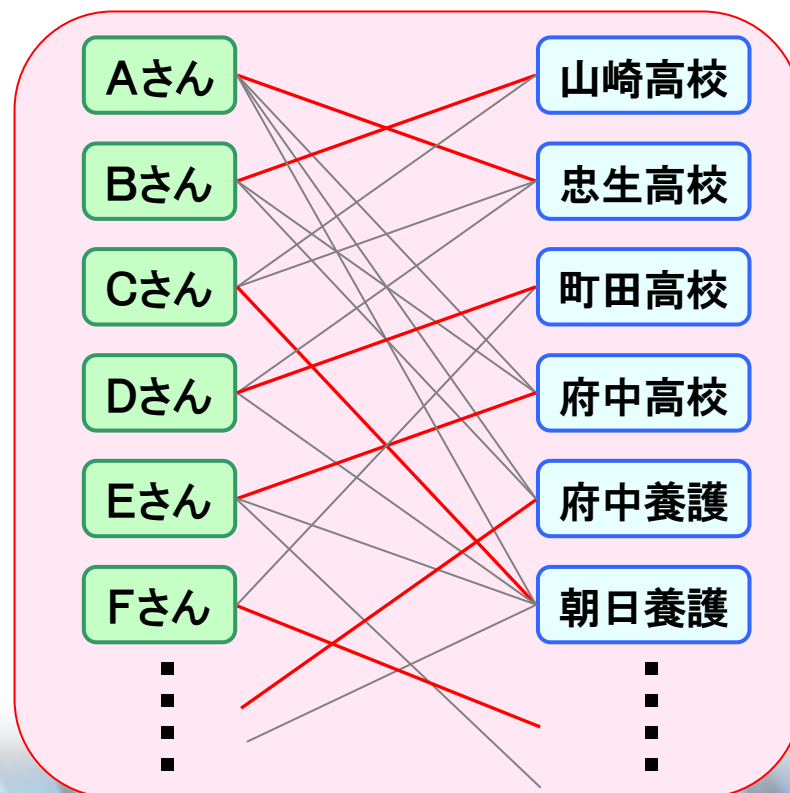
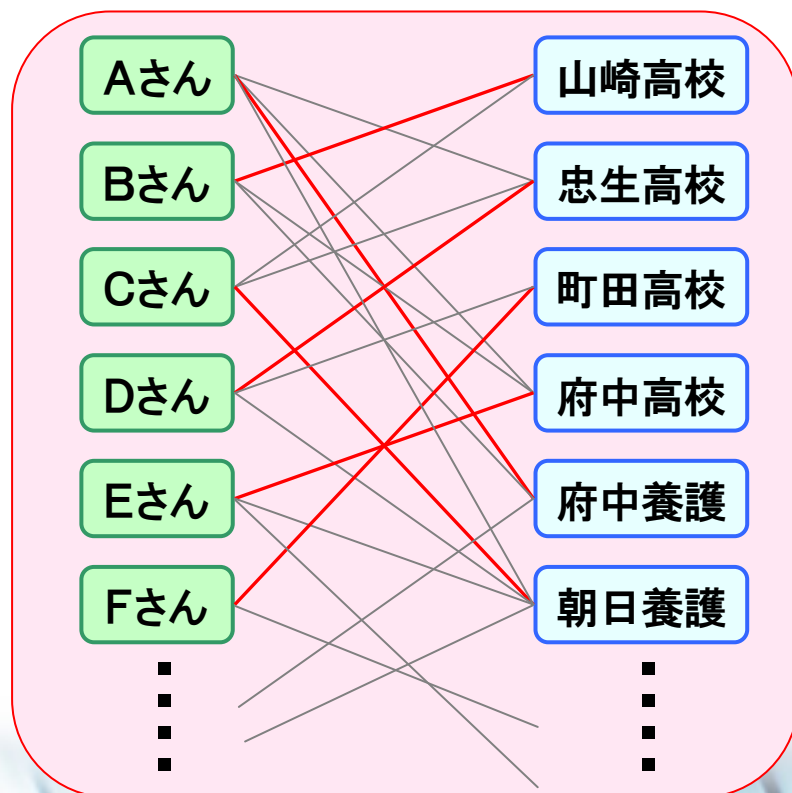
配属問題を解いていこう

今後の研究課題

■ 実際に配属問題を解いてみる

30人程度の配属問題

■ 結果にバリエーションは存在するのか

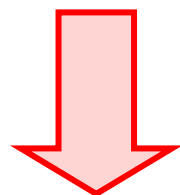


ご静聴ありがとうございました



現実問題として

異動決定を単に支援すればいいのか ×



実際は

各高校で一定の事務能力が確保されること

- 個人の能力評価
- 仕事内容(経理、庶務、学事、施設)
- 各高校の事務能力の評価

配属問題に組み込んでいく必要がある